



国産生鮮野菜の許容価格に 影響を与える 消費者意識の分析

東京理科大学大学院

工学研究科 経営工学専攻

出江 聡子

発表の流れ

1. 研究背景
 2. 先行研究
 3. 研究目的
 4. アンケート調査概要
 5. ライフスタイル別の類型
 6. 分析結果
 7. まとめ
- 参考文献
 - 付録

研究背景

- 野菜の生産量は減少傾向
 - 農業の担い手の高齢化と減少
 - 野菜の消費量の減少
- 野菜の輸入量は増加傾向
 - 外食・加工産業の需要増加
 - 低価格な野菜の需要増加
- 新品種の野菜の生産が増加
 - 大企業による工場野菜の生産
 - 季節・天候関わらず生産が可能な野菜

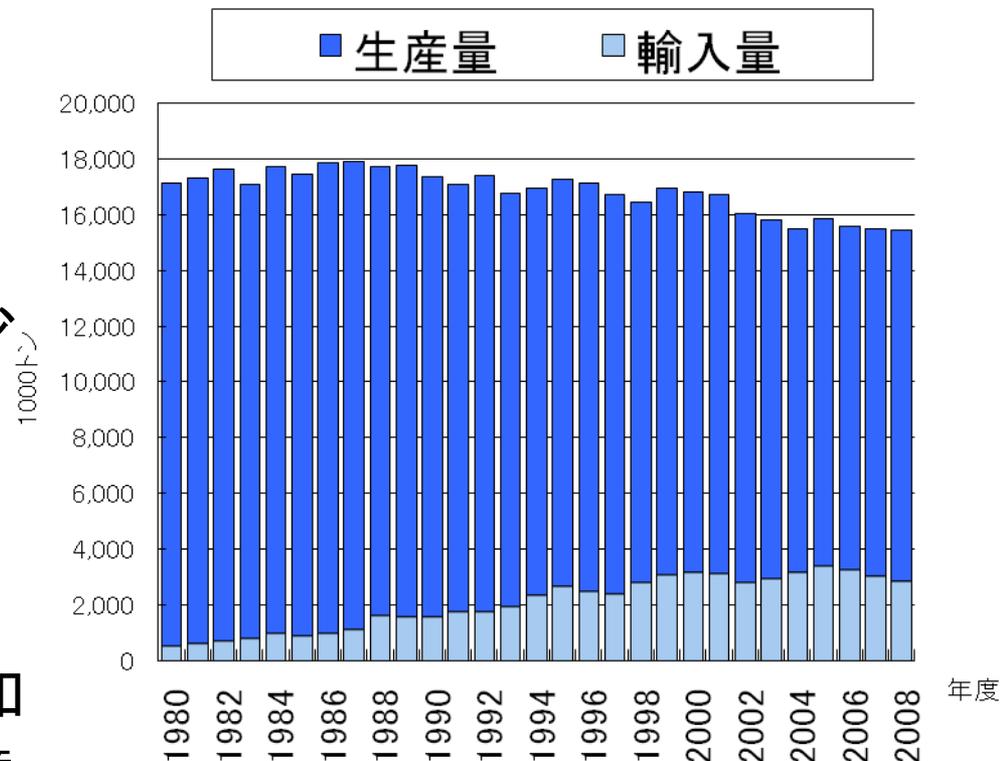


図1: 国産野菜生産量と輸入野菜量の推移

(出典: 農林水産省)

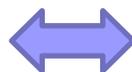
消費者が選ぶことのできる野菜は増え、
野菜の市場をめぐって競争が激しくなりつつある。

研究背景

- 農業は長年保護されてきたことにより、マーケティングコンセプトの視点に欠けている[1].

- 現代の日本の食料の特徴

グルメの素材



絶対的な必需品

- 自給率の向上が求められているが、国産農産物の消費を強制できない。

- 国民一人当たりの野菜の摂取量を増加させる政策(農林水産省)

- にっぽん食育推進事業・・・野菜摂取の少ない若年層にターゲットを絞った摂取拡大活動。

- 地産地消の推進・・・地産地消のモデル的な取組みへの支援活動

→これらの政策は、消費者の野菜への意識とニーズの把握が必要とされる。

研究背景

- 日本の食料消費は成熟化している.
- 所得の差による個々の消費者の食生活の差はなくなってきた.

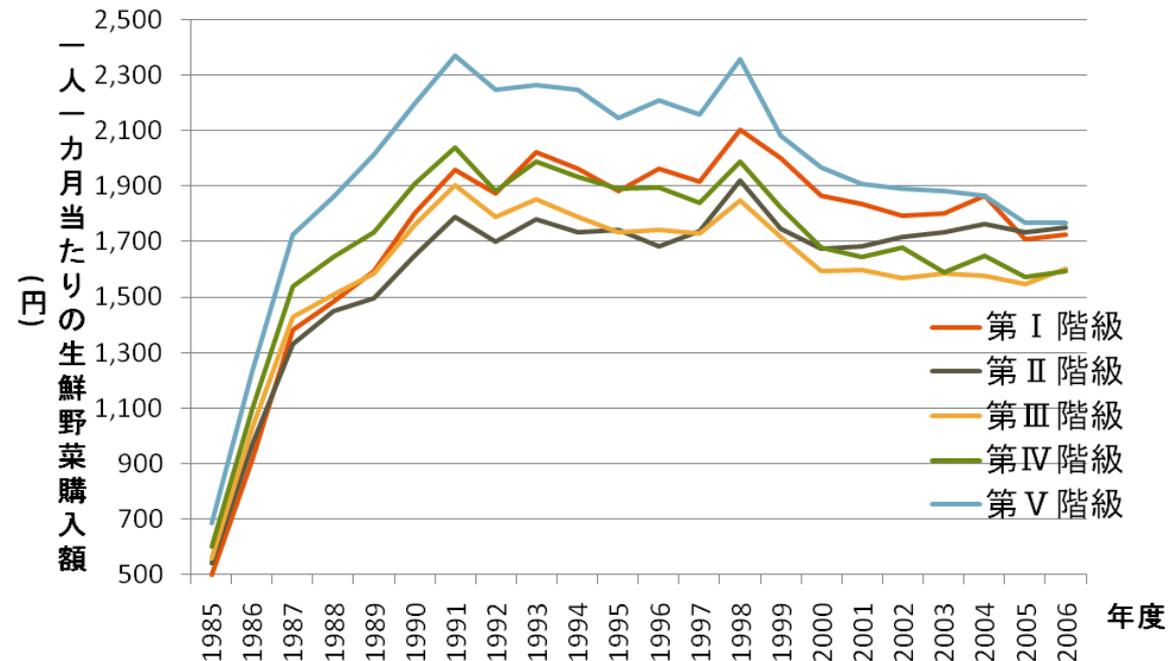


図2: 所得階層別野菜購入量変化[9]

消費者ニーズを捉えるために、野菜の購買行動を捉える視点として、所得の差だけでなく、それ以外の要因を探ることが必要となってきた[1].

先行研究

野菜への消費者意識や購買行動に関する先行研究として、

- 大学生や社会人を対象とした野菜の購買行動の研究(中畠,1991)[3]
- 地元産農産物に対する消費者選好要因の研究(大庭,2006)[4]

野菜以外の農産物では...

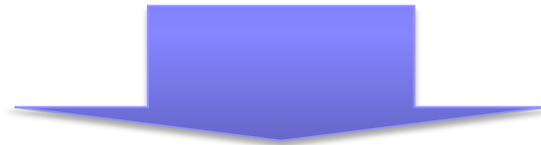
- 遺伝子組み換え食品に対する消費者の意識や態度の違いによる購買行動の研究(Pierre Ganiere et al ,2006)

海外においては、消費者の意識や態度の解明に重点をおいた研究がみられるものの、日本においては消費者意識と購買行動との関係についての研究は少ない。

研究目的

研究背景

- 低価格な輸入野菜や、安定供給可能な工場野菜の参入により野菜市場の競争が激しくなりつつある.
- 国産野菜の消費を拡大するためには、消費者の意識やニーズの把握が必要.



研究目的

- 家庭における野菜の購買行動を調査し、その背景にある、消費者意識やニーズを探る.
- 国産野菜の購買に結びついている志向を定量的に分析する.

許容価格

許容価格

輸入生鮮野菜よりも価格が高い国産生鮮野菜10品目について、「国産生鮮野菜の価格がいくらなら、輸入品ではなく国産を買うか」をたずねた質問である。

- 国産野菜をよく購入する人は9割以上。
- 輸入野菜はあまり購入されていない。

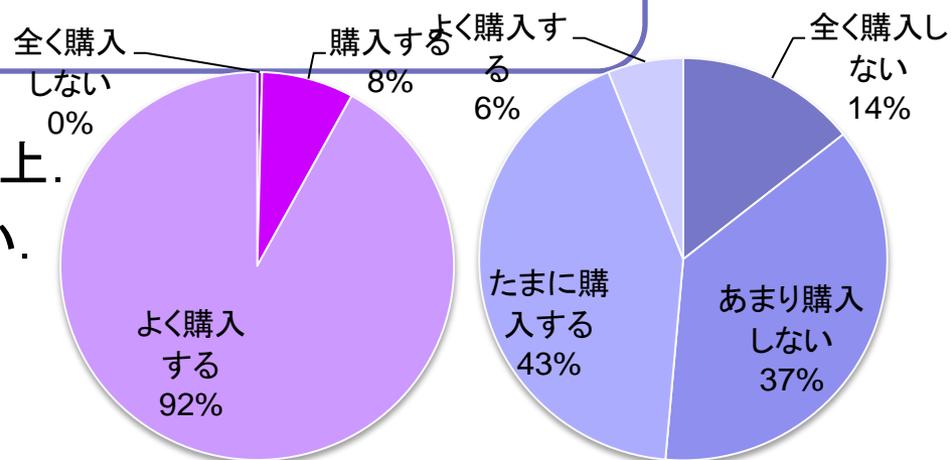


図3:国産野菜の購入頻度

図4:輸入野菜の購入頻度

- もともと国産野菜は購入頻度が高い。
- 価格変動の激しい国産野菜の消費を増やすには、野菜の価格高騰時でも購入する消費者を増やすことが必要。
- どの程度高い値段まで国産を買ってくれるかを表す許容価格に影響を与える消費者意識を探る。

アンケート調査概要

- 調査期間:2009年10月27日～11月29日
- 調査方法:質問紙調査
- 調査形式:選択記述式アンケート調査
- 調査対象数:261人(有効回答数:251人,有効回収率:96.1%)
- 調査対象:首都圏近郊在住の主婦

アンケートの内容

表1: アンケートの質問内容

| 属性項目 | 生鮮野菜購入時の評価項目の重要度 |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・性別 ・世帯人数 ・回答者就業状態 ・最寄駅 ・年齢 ・子供の数 ・世帯主就業状態 ・ゆとりの度合い | <ul style="list-style-type: none"> ・価格 ・鮮度 ・旬 ・JASマーク ・特売日 ・形, 色, つや ・無農薬, 有機栽培 ・生産・流通の管理 ・国産 |
| 国産生鮮野菜について | 輸入生鮮野菜について |
| <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度への満足度 ・おいしさへの満足度 ・色, 形, つやのよさへの満足度 ・安全性への満足度 ・価格への満足度 ・許容価格 | <ul style="list-style-type: none"> ・鮮度への満足度 ・おいしさへの満足度 ・色, 形, つやのよさへの満足度 ・安全性への満足度 ・価格への満足度 |
| 食品や農業への関心 | 食生活についての心がけ具合 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・生産・流通の管理 ・工場野菜の流通 ・農業後継者の減少 ・日本の食糧自給率 ・残留農薬問題 ・遺伝子組換え食品 ・地産地消 ・食育 | <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を多くとる ・生活習慣病の予防 ・摂取カロリー ・栄養バランス |
| 野菜の購入について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・国産野菜の購入頻度(価格高騰前・後) ・輸入野菜の購入頻度(価格高騰前・後) ・カット野菜の購入頻度(価格高騰前・後) | <ul style="list-style-type: none"> ・缶詰の野菜の購入頻度(価格高騰前・後) ・冷凍野菜の購入頻度(価格高騰前・後) ・惣菜の購入頻度(価格高騰前・後) |

回答者の属性

表2: 回答者の属性

| 項目 | 水準 | 割合(%) | 項目 | 水準 | 割合(%) |
|-------|------------|-------|-------|--------|-------|
| 年齢 | 25歳未満 | 0.0 | 子供の人数 | 0人 | 56.6 |
| | 25歳～34歳 | 6.8 | | 1人 | 17.1 |
| | 35歳～44歳 | 57.4 | | 2人 | 19.9 |
| | 45歳～54歳 | 33.9 | | 3人 | 6.0 |
| | 55歳～64歳 | 2.0 | | 4人 | 0.4 |
| | | 65歳以上 | 0.0 | | |
| 回答者職業 | 家事専業 | 13.1 | 世帯主職業 | 専門・技術職 | 15.9 |
| | 正規の職員・従業員 | 23.9 | | 管理職 | 25.1 |
| | パート・アルバイト | 39.4 | | 事務職 | 33.5 |
| | 派遣社員・契約社員 | 19.9 | | 営業販売職 | 5.2 |
| | 自営業主 | 0.8 | | サービス職 | 4.8 |
| | 自家営業手伝い・内職 | 0.8 | | 運輸・通信職 | 3.2 |
| | 会社などの役員 | 0.8 | | 生産・労務職 | 2.0 |
| | その他 | 1.2 | | その他 | 10.0 |
| | | | | 無回答 | 0.4 |
| 世帯人数 | 1人 | 19.5 | | | |
| | 2人 | 20.7 | | | |
| | 3人 | 28.7 | | | |
| | 4人 | 22.7 | | | |
| | 5人 | 6.8 | | | |
| | 6人 | 1.6 | | | |

ライフスタイルでの類型

■ ライフスタイル・セグメンテーション

消費者意識と消費行動の関係を解明する手法

■ ライフスタイルと消費者意識の関係

ライフスタイル: 個々の意見や関心事, 行動など生活に表れるもの

消費者意識: 判断の背後にあり, ライフスタイルに影響を与えるもの



図5: ライフスタイルと消費者意識の関係
2010年度S-PLUS学生奨励賞応募

分析手順

1. 食生活や農産物購入に関するライフスタイル項目を用いて因子分析.
⇒農産物購入に関する消費者意識を抽出
2. 因子得点を用いてクラスター分析を行い, 各因子の強さによって回答者をライフスタイル類型に分類.
3. ライフスタイルごとに, 許容価格への影響を分析
 - 3-1.許容価格に影響を与える消費者意識
 - 3-2.国産野菜・輸入野菜への満足度が許容価格に与える影響に違いがあるかを, 共分散構造分析によって明らかにする.

消費者意識の抽出(因子分析)

- 生鮮野菜購入に関する消費者意識の基本因子
- 抽出法:最小二乗法 回転:バリマックス回転

表3:因子分析結果

| 抽出した基本因子 | 質問項目の内容 |
|----------|---|
| 食・農業への関心 | 食料自給率への関心, 農業後継者の減少への関心, 地産地消への関心, 残留農薬への関心, 食育への関心, 遺伝子組み換え食品の流通への関心 |
| 健康志向 | 摂取カロリー, 生活習慣病, 栄養バランス, 野菜の積極的摂取 |
| 付加価値重視 | JASマークの重要度, 生産・流通の管理がされていることの重要度, 無農薬・有機栽培であることの重要度 |
| 簡便化重視 | カット野菜の購入頻度, 惣菜の購入頻度, 冷凍野菜の購入頻度, 缶詰の購入頻度 |
| 品質重視 | 旬重視, 野菜の形・つや重視, 鮮度重視 |
| 安全性への関心 | 工場野菜の流通への関心, 生産流通の管理への関心 |
| 価格重視 | 価格が手ごろであることの重要度, 野菜の特売日の重要度 |

ライフスタイルごとの類型

- 因子分析により得られた因子得点を用いてクラスター分析を行い、簡便型とバランス型の二つのグループが得られた。

表4: クラスター分析結果

| | | 回答者のライフスタイル類型 | |
|----------------|----------|---------------|--------|
| | | 簡便型 | バランス型 |
| 基本因子 消費者意識の | 食・農業への関心 | -0.694 | 0.499 |
| | 健康志向 | -0.584 | 0.420 |
| | 付加価値重視 | -0.584 | 0.420 |
| | 簡便化重視 | 0.161 | -0.155 |
| | 品質重視 | -0.473 | 0.340 |
| | 安全性への関心 | -0.744 | 0.535 |
| | 価格重視 | -0.036 | 0.026 |
| 人数 | | 105人 | 146人 |

因子得点
の平均値

ライフスタイル別の属性

表5: ライフスタイル別の属性

| 項目 | 水準 | 簡便型 | バランス型 | 合計 |
|-------|----------------|-------------|-------------|------------|
| 年齢 | 25歳～34歳 | 8.6 | 5.5 | 6.8 |
| | 35歳～44歳 | 61.0 | 54.8 | 57.4 |
| | 45歳～54歳 | 28.6 | 37.7 | 33.9 |
| | 55歳～64歳 | 1.9 | 2.1 | 2.0 |
| 回答者職業 | 家事専業 | 7.6 | 17.1 | 13.1 |
| | 正規の職員・従業員 | 23.8 | 24.0 | 23.9 |
| | パート・アルバイト | 45.7 | 34.9 | 39.4 |
| | 派遣社員・契約社員 | 20.0 | 19.9 | 19.9 |
| | 自営業主 | 0.0 | 1.4 | 0.8 |
| | 自家営業手伝い・内職 | 0.0 | 1.4 | 0.8 |
| | 会社などの役員 その他 | 1.0 1.9 | 0.7 0.7 | 0.8 1.2 |
| 世帯人数 | 1人 | 22.9 | 17.1 | 19.5 |
| | 2人 | 22.9 | 19.2 | 20.7 |
| | 3人 | 28.6 | 28.8 | 28.7 |
| | 4人 | 19.0 | 25.3 | 22.7 |
| | 5人 | 5.7 | 7.5 | 6.8 |
| | 6人 | 1.0 | 2.1 | 1.6 |

| 項目 | 水準 | 簡便型 | バランス型 | 合計 |
|------------------|------------|-------------|-------------|-------------|
| 子供の人数 (15歳以上) | 0人 | 78.1 | 71.9 | 74.5 |
| | 1人 | 6.7 | 6.2 | 6.4 |
| | 2人 | 12.4 | 18.5 | 15.9 |
| | 3人 | 2.9 | 2.7 | 2.8 |
| | 4人 | 0.0 | 0.7 | 0.4 |
| 子供の人数 (7-14歳) | 0 | 90.5 | 82.2 | 85.7 |
| | 1 | 4.8 | 15.8 | 11.2 |
| | 2 | 3.8 | 2.1 | 2.8 |
| | 3 | 1.0 | 0.0 | 0.4 |
| 子供の人数 (7歳未満) | 0 | 88.6 | 92.5 | 90.8 |
| | 1 | 9.5 | 6.8 | 8.0 |
| | 2 | 1.9 | 0.7 | 1.2 |
| 世帯主職業 | 専門・技術職 | 16.2 | 15.8 | 15.9 |
| | 管理職 | 20.0 | 28.8 | 25.1 |
| | 事務職 | 34.3 | 32.9 | 33.5 |
| | 営業販売職 | 8.6 | 2.7 | 5.2 |
| | サービス職 | 6.7 | 3.4 | 4.8 |
| | 運輸・通信職 | 2.9 | 3.4 | 3.2 |
| | 生産・労務職 | 1.9 | 2.1 | 2.0 |
| | その他 無回答 | 9.5 0.0 | 10.3 0.7 | 10.0 0.4 |

簡便型の方が若い回答者が多く、世帯人数が1人または2人である人が半数近くを占める。
バランス型は年齢層が高く、また、子供がある程度大きくなっている。

ライフスタイル別の許容価格

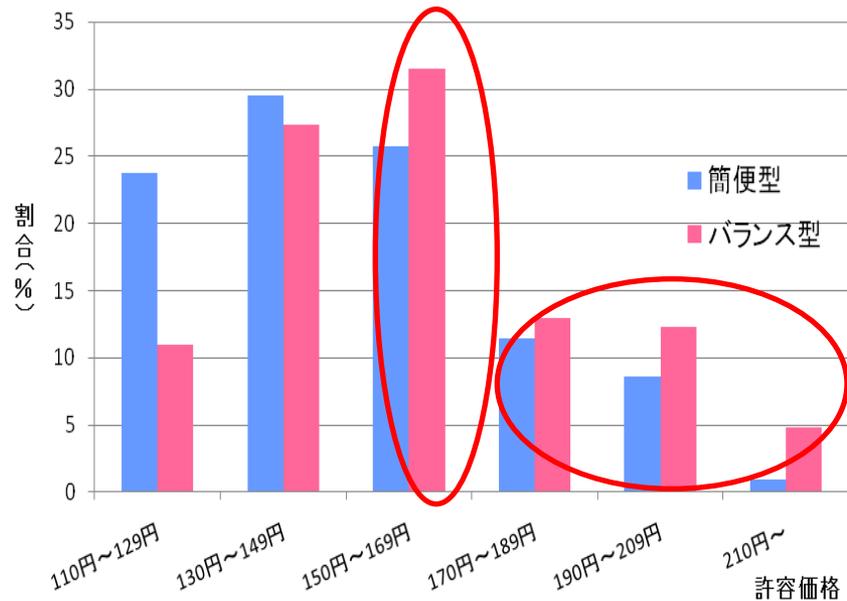


図6: ライフスタイル別国産かぼちゃ許容価格

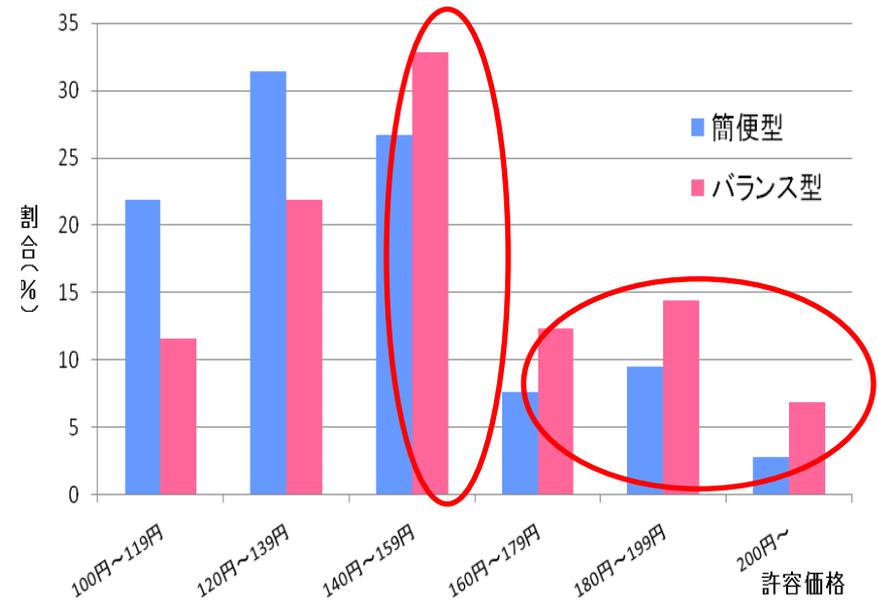


図7: ライフスタイル別国産ブロッコリー許容価格

バランス型の人の方が
高い許容価格を持っている
人の割合が多い。



バランス型の人の方が、国産野
菜が少し高くても購入する意思
があることがわかる。

許容価格に影響を与える消費者意識

(共分散構造分析)

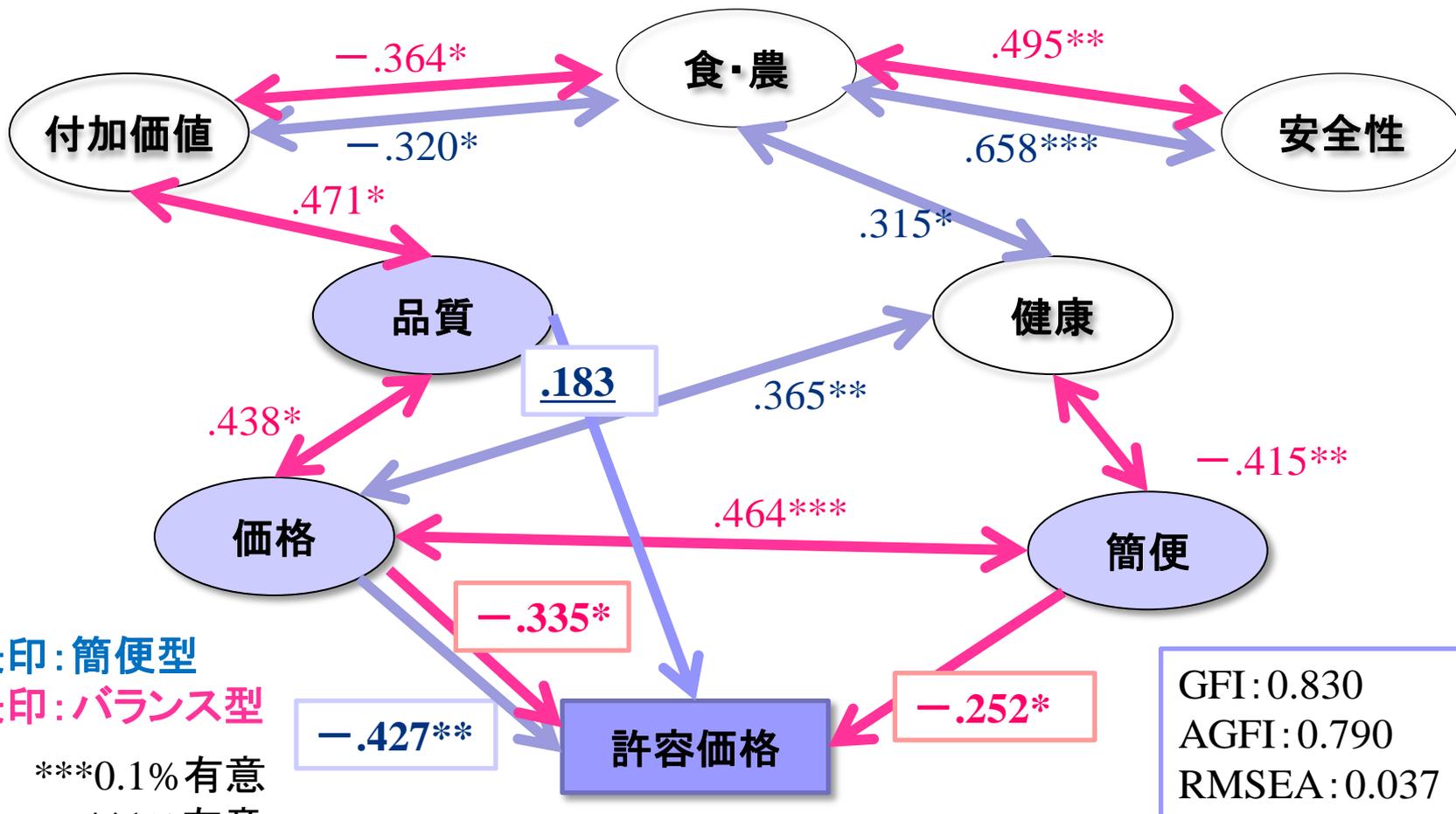


図8: 消費者意識と許容価格の関係

考察1 消費者意識の関係

簡便型

- 健康を意識して野菜を多く購入する人ほど、価格を重視する傾向がある。
→簡便型のグループは生鮮野菜よりも値段の高い冷凍野菜やカット野菜の購入が多いため。
- 健康意識は食・農業への関心があるほど高まる。
- 食・農業への関心が高くても付加価値のある野菜はあまり求めている。

バランス型

- 価格を重視する人は品質も重視している。
→安くて鮮度の良い野菜が求められている。
- 健康を重視する人ほど簡便性を重視しない。

簡便型・バランス型

- 食や農業への関心が高い人ほど、工場野菜や生産流通の管理への関心も高い。
- 食や農業への関心が高い人ほど、野菜購入時に無農薬野菜やJASマークなどを重要視しない

考察2 許容価格に影響を与える消費者意識

簡便型

価格重視(－), 品質重視(+)

野菜の購入に関して、簡便性を重視しているグループは、

- 価格を重視する人ほど許容価格が下がる。
- 品質を重視する人ほど許容価格が上がる。

→カット野菜や冷凍野菜などの商品は価格を下げることで求められていると同時に、品質の向上も求められている。

バランス型

価格重視(－), 簡便化重視(－)

安全性や品質を重視したり、食・農業に関心の高いグループは、

- 価格を重視する人ほど許容価格が下がる。
- 簡便性を重視しない人ほど許容価格が上がる。

→国産野菜は価格を下げることで求められているが、加工されたものではなく、野菜そのままの形で提供されているものを求めている人ほど、国産野菜が高くても購入する。

ライフスタイル別の満足度の違い

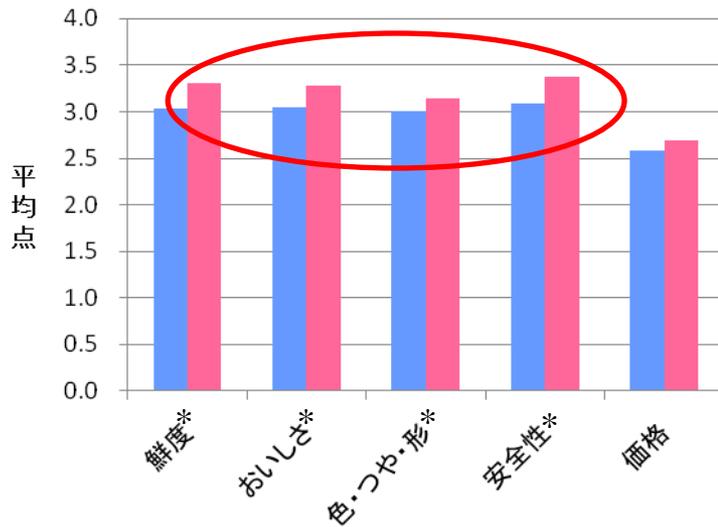


図9: 国産生鮮野菜満足度

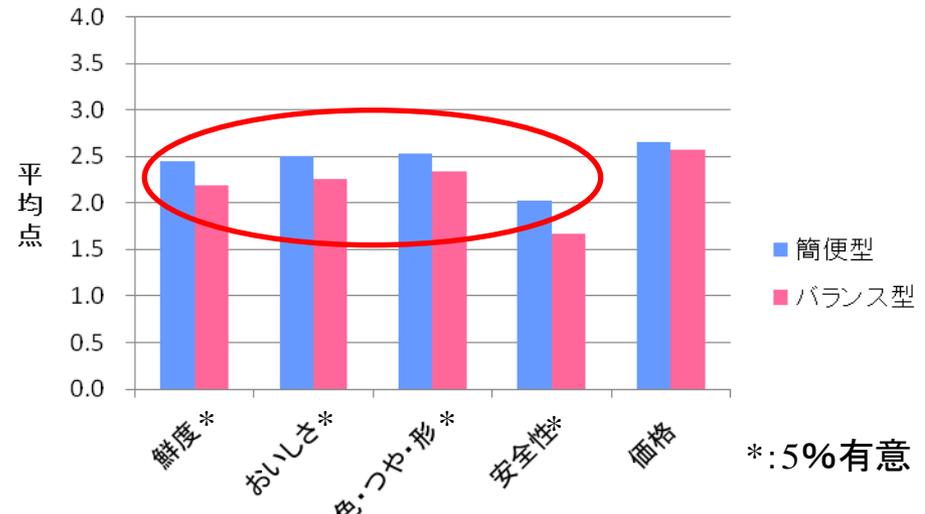


図10: 輸入生鮮野菜満足度

- 国産生鮮野菜においては、バランス型の方が簡便型よりも満足度が高い。
- 輸入生鮮野菜においては簡便型の方がバランス型よりも満足度が高い。



満足度の違いも国産野菜の許容価格に影響を与えるのではないか。

許容価格に影響を与える満足意識

(共分散構造分析)

- 簡便型においては満足意識の許容価格への有意な影響はみられない。
- バランス型においては、輸入野菜への不満感が許容価格を上げていると考えられる。

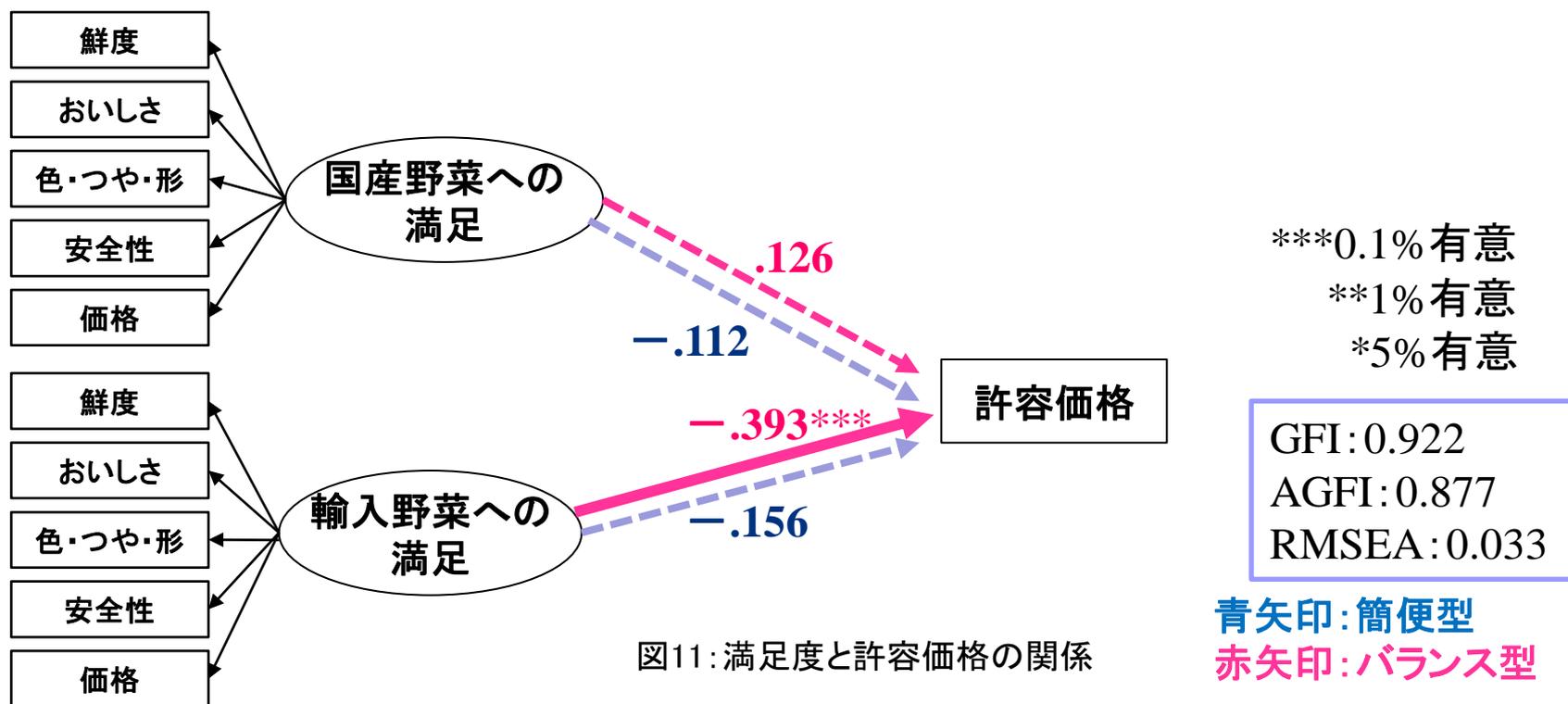


図11: 満足度と許容価格の関係

まとめ

- 本研究では主に、アンケートの基礎分析，因子分析，クラスター分析においてS-PLUSを利用した.
- 野菜の購買行動の背景にある消費者意識として，食や農業への関心，健康重視，付加価値重視，簡便性の重視，安全性への関心，品質重視，価格重視といった意識があることが分かった.
- 簡便性を重視する消費者は野菜の鮮度や状態が良ければ，少し高くても国産野菜を買う意思がある。
→国産野菜の消費を増やすには品質の高いカット野菜や冷凍野菜などの提供が必要と考えられる.
- 食や農業に関心があり，健康を意識する消費者は簡便性の高い野菜ではなく，少し価格が高くても国産生鮮野菜へのニーズが強い。
→食生活や農業により高い関心を持つ消費者が増えるような，食育などの事業の推進が必要である.

今後の研究方針

- モデルの適合度がよくない。
→観測変数を見直し、モデルを改良する。
- 実際に野菜を購入するときに、輸入野菜ではなく国産を選ぶ消費者がどのような判断基準を持っているか調査する。
- 本当に所得の差や生活のゆとりの差による違いがないか分析する必要がある。

参考文献

- [1]磯島昭代:「農産物購買における消費者ニーズ - マーケティング・リサーチによる - 」,農林統計協会 ,(2009).
- [2]中畠輝子, 中澤久志, 青木幸夫:“野菜に関する消費者購買意識とイメージの分析”, 静岡県農業試験場研究報告, vol.36 pp.1-10 (1991).
- [3]大庭隆嗣, 平野達郎, 栗原伸一:“地元産農産物に対する消費者選好の因果構造”, 農村計画学会誌 vol.25 pp.413-418 (2006).
- [4]磯島昭代:“消費者の食に関する意識と農産物の購入状況 - ライフスタイル・セグメンテーションによる接近 - ”, フードシステム研究, vol.13 pp.35-45 (2006).
- [5]Pierre Ganiere, Wen S. Chern, David Hahn:“A Continuum of Consumer Attitudes Toward Genetically Modified Foods in the United States”, Journal of Agricultural and Resource Economics 31(1), pp.129-149 (2006).
- [6]豊田秀樹:「共分散構造分析 入門編」, 朝倉書店 (2002).
- [7]豊田秀樹:「共分散構造分析 疑問編」, 朝倉書店(2003).
- [8]農林水産省HP:<http://www.maff.go.jp/index.html> (最終閲覧日:2010/10/12)
- [9]独立行政法人農畜産業振興機構:<http://vegetan.alic.go.jp/index.html> (最終閲覧日:2010/10/13)



Appendix

許容価格について

■ 許容価格：

輸入生鮮野菜よりも価格が高い国産生鮮野菜10品目について国産生鮮野菜の価格がいくらなら、輸入品ではなく国産を買うかをたずねた質問である。

各野菜について調査を行った10月、11月の1年前の2008年度の10月11月期の国産生鮮野菜の平均価格と輸入生鮮野菜の平均価格をもとに、6段階の選択肢を設けてたずねている。

問 7. 輸入かぼちゃの平均価格は 110 円(350g/4 分の 1 カット)ですが、国産かぼちゃの価格がいくらなら、国産かぼちゃを選びますか。あてはまる番号に○をつけて下さい。(○は1つ)

- | | | |
|-----------------|-----------------|-----------------|
| 1. 110円以上130円未満 | 2. 130円以上150円未満 | 3. 150円以上170円未満 |
| 4. 170円以上190円未満 | 5. 190円以上210円未満 | 6. 210円以上 |

野菜：かぼちゃ、生しいたけ、ブロッコリー、しょうが、ニンニク、ごぼう、さといも、ねぎ、オクラ、レモン

因子分析結果

| 因子 | 負荷量平方和 | | | 回転後の 負荷量平方和 |
|----|--------|--------|--------|----------------|
| | 合計 | 分散の % | 累積 % | 合計 |
| 1 | 4.859 | 20.246 | 20.246 | 3.962 |
| 2 | 1.969 | 8.203 | 28.449 | 3.586 |
| 3 | 1.626 | 6.777 | 35.226 | 2.291 |
| 4 | 1.334 | 5.557 | 40.783 | 1.478 |
| 5 | 0.719 | 2.995 | 43.778 | 1.741 |
| 6 | 0.610 | 2.544 | 46.321 | 2.913 |
| 7 | 0.541 | 2.255 | 48.576 | 1.204 |

因子負荷量

| | 食・農業への 関心 | 健康志向 | 付加価値重 視 | 簡便化重視 | 品質重視 | 安全性 への 関心 | 価格重視 |
|----------------------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----------------|--------------|
| 日本の食料自給率に関心がある | 0.999 | -0.130 | 0.024 | -0.030 | -0.108 | -0.151 | 0.077 |
| 農業後継者の減少に関心がある | 0.723 | -0.082 | -0.098 | -0.077 | -0.010 | -0.010 | 0.057 |
| 地産地消に関心がある | 0.626 | -0.004 | -0.082 | -0.004 | 0.141 | 0.107 | -0.162 |
| 残留農薬問題に関心がある | 0.517 | 0.293 | 0.063 | 0.059 | -0.075 | 0.004 | 0.032 |
| 食育に関心がある | 0.429 | 0.186 | 0.004 | 0.156 | 0.113 | 0.024 | -0.119 |
| 遺伝子組み換え食品の流通に関心がある | 0.358 | 0.137 | -0.039 | 0.012 | 0.061 | 0.308 | 0.100 |
| 生活習慣病の予防を心がけている | -0.046 | 0.806 | 0.127 | 0.054 | -0.036 | -0.017 | -0.068 |
| 栄養バランスのとれた食事をとることを心がけている | -0.006 | 0.801 | -0.013 | -0.107 | -0.015 | -0.018 | 0.048 |
| 摂取カロリーに気をつけることを心がけている | -0.019 | 0.727 | -0.023 | -0.043 | -0.033 | -0.124 | 0.047 |
| 野菜を多く取ることを心がけている | 0.088 | 0.676 | -0.152 | 0.046 | -0.004 | 0.017 | 0.008 |
| JASマークがあることを重要視する | -0.039 | -0.051 | 0.789 | -0.015 | -0.044 | 0.009 | 0.087 |
| 生産・流通の管理(野菜)が確認できることを重要視する | -0.005 | -0.038 | 0.749 | 0.038 | 0.017 | 0.093 | -0.008 |
| 無農薬・有機栽培であることを重要視する | -0.075 | 0.086 | 0.538 | -0.033 | 0.169 | 0.016 | -0.067 |
| カット野菜の購入頻度 | -0.133 | -0.028 | 0.021 | 0.734 | 0.002 | -0.027 | -0.023 |
| 惣菜(野菜を調理しているもの)の購入頻度 | 0.152 | -0.180 | 0.080 | 0.527 | -0.128 | -0.049 | 0.043 |
| 冷凍野菜の購入頻度 | -0.028 | 0.088 | 0.000 | 0.449 | -0.012 | -0.004 | 0.081 |
| 缶詰の野菜の購入頻度 | 0.049 | 0.023 | -0.229 | 0.330 | 0.118 | 0.175 | 0.023 |
| 旬であることを重要視する | 0.171 | -0.070 | 0.154 | -0.015 | 0.598 | -0.134 | -0.094 |
| 野菜の形、つやが良いことを重要視する | -0.168 | -0.044 | -0.084 | -0.008 | 0.566 | 0.060 | 0.162 |
| 鮮度が良いことを重要視する | 0.072 | -0.012 | 0.090 | -0.040 | 0.497 | -0.062 | 0.091 |
| 工場野菜の流通に関心がある | 0.036 | -0.123 | 0.054 | 0.010 | -0.047 | 0.920 | -0.028 |
| 生産・流通の管理への取り組みに関心がある | 0.267 | 0.073 | 0.179 | -0.079 | -0.068 | 0.431 | 0.030 |
| 価格が手ごろであることを重要視する | 0.008 | -0.060 | -0.057 | 0.007 | 0.101 | 0.040 | 0.747 |
| 野菜の特売日であることを重要視する | 0.017 | 0.144 | 0.136 | 0.106 | 0.063 | -0.084 | 0.539 |

因子相関

| 因子 | 食・農業への関心 | 健康志向 | 付加価値重視 | 簡便化重視 | 品質重視 | 安全性への関心 | 価格重視 |
|----------|----------|--------|--------|--------|--------|---------|--------|
| 食・農業への関心 | 1.000 | 0.477 | 0.196 | -0.005 | 0.219 | 0.581 | 0.046 |
| 健康志向 | 0.477 | 1.000 | 0.189 | -0.192 | 0.262 | 0.401 | 0.152 |
| 付加価値重視 | 0.196 | 0.189 | 1.000 | -0.171 | 0.407 | 0.301 | -0.126 |
| 簡便化重視 | -0.005 | -0.192 | -0.171 | 1.000 | -0.055 | -0.021 | 0.274 |
| 品質重視 | 0.219 | 0.262 | 0.407 | -0.055 | 1.000 | 0.253 | -0.050 |
| 安全性への関心 | 0.581 | 0.401 | 0.301 | -0.021 | 0.253 | 1.000 | 0.059 |
| 価格重視 | 0.046 | 0.152 | -0.126 | 0.274 | -0.050 | 0.059 | 1.000 |

用語の意味

▶ 食育

国民一人一人が、生涯を通じた健全な食生活の実現、食文化の継承、健康の確保等が図れるよう、自らの食について考える習慣や食に関する様々な知識と食を選択する判断力を楽しく身に付けるための学習等の取組み。

▶ 地産地消

地域でとれたものをその地域で消費すること。

▶ JAS (Japanese Agricultural Standard) マーク

JAS規格が定められた品目について、その該当するJAS規格に適合していると判定することを格付といい、格付を受けた製品につけられるマーク。

• 工場野菜

雑菌が入らないように徹底管理された空間で、土を使わず、人工の光と養液を使って栽培する野菜のこと。

生産・流通の管理の例

■ ポジティブリスト

基準が設定されていない農薬等が一定量以上含まれる食品の流通を原則禁止する制度.

■ トレーサビリティ

生産、加工及び流通の特定の一つまたは複数の段階を通じて、食品の移動を把握できること.

■ HACCP (Hazard Analysis and Critical Control Point)

原料の入荷から製造・出荷までのすべての工程において、あらかじめ危害を予測し、その危害を防止するための重要管理点を特定して、そのポイントを継続的に監視・記録(モニタリング)し、異常が認められたらすぐに対策を取り解決するので、不良製品の出荷を未然に防ぐことができるシステム.